

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成26年12月15日

【四半期会計期間】 第20期第2四半期(自 平成26年8月1日 至 平成26年10月31日)

【会社名】 株式会社アスカネット

【英訳名】 Asukanet Company,Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼CEO 福田 幸雄

【本店の所在の場所】 広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号

【電話番号】 082-850-1200(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役CFO 功野 顕也

【最寄りの連絡場所】 広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号

【電話番号】 082-850-1200(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役CFO 功野 顕也

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第2四半期 累計期間	第20期 第2四半期 累計期間	第19期
会計期間	自 平成25年 5月1日 至 平成25年 10月31日	自 平成26年 5月1日 至 平成26年 10月31日	自 平成25年 5月1日 至 平成26年 4月30日
売上高 (千円)	2,212,518	2,325,450	4,767,056
経常利益 (千円)	279,496	285,154	726,361
四半期(当期)純利益 (千円)	170,498	180,629	445,803
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	490,300	490,300	490,300
発行済株式総数 (株)	4,366,000	4,366,000	4,366,000
純資産額 (千円)	3,408,788	3,746,073	3,687,653
総資産額 (千円)	3,949,076	4,519,988	4,357,454
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	10.18	10.79	26.62
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	10.11	10.66	26.38
1株当たり配当額 (円)			32.00
自己資本比率 (%)	86.3	82.7	84.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	295,976	216,612	836,003
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	236,362	268,087	342,644
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	130,467	134,046	131,601
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	873,408	1,120,501	1,306,024

回次	第19期 第2四半期 会計期間	第20期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成25年 8月1日 至 平成25年 10月31日	自 平成26年 8月1日 至 平成26年 10月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4.24	4.84

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 当社には関連会社がありませんので、持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。
- 4 当社は平成26年11月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第19期期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額および潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策の下支えもあり、緩やかな回復傾向にあります。企業業績の回復には足踏みが見られ、円安による輸入価格の上昇なども懸念されております。

景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するチャレンジングなビジネスであるパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

また、新サービスとして「選べるギフト」に特化したECプラットフォーム「ギフトネットコム」のリリースに向け、開発、マーケティングを進めてまいりました。

このような状況のもと、既存事業での着実な成長と、新規事業への先行投資のバランスに配慮して、事業を推進してまいりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,325,450千円（前年同四半期比105.1%）となり、利益面につきましては、エアリアルイメージング事業の量産に向けた試作や「ギフトネットコム」サービスの研究開発等への先行費用が発生したものの、売上増による粗利益の増加により、経常利益は285,154千円（前年同四半期比102.0%）、四半期純利益は180,629千円（前年同四半期比105.9%）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、新規顧客獲得による遺影写真加工収入や動画など葬儀演出関連売上の着実な増加に加え、額の売上も順調に推移しました。

平成25年10月に設立したびわこオペレーションセンターは開設1年をむかえ、安定的に稼働しております。また、経費面におきましては、展示会向けの広告宣伝費や旅費交通費が増加しました。

その結果、売上高は1,063,608千円(前年同四半期比103.0%)、セグメント利益は319,548千円(前年同四半期比102.2%)となりました。

(パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真市場向けには、全国セミナーの実施や写真集発注用ソフトウェアの改善を進めたほか、「ZENレイフラット」「オンデマウント」など新しい製品の販売に注力してまいりました。一般消費者向けには、各種イベントへの出展やキャンペーンの実施に加え、企業とのタイアップによるサービスの提供にも取り組んでまいりました。

海外向け売上は競争環境が厳しく苦戦しているものの、国内プロフェッショナル写真家向け売上、一般消費者向け売上とも順調に推移いたしました。生産効率の向上により粗利率は向上し、経費面につきましては、広告宣伝費や人件費が増加いたしました。

その結果、売上高は1,241,060千円(前年同四半期比106.3%)、セグメント利益は224,238千円(前年同四半期比111.0%)となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であります。

当事業におきましては、空中結像を可能にする特殊なプレート(AIプレート)の試作品を販売してまいりました。10月には展示会CEATECに出展し、空中結像技術の具体的な活用シーンを提案し、多くの反響、問合せをいただきました。

また、最重要課題でありますAIプレートの量産化につきましては、複数の製造方法により試作を繰り返しており、量産技術の確立に向けて着実に前進しております。

その結果、売上高は20,780千円(前年同四半期比165.4%)、セグメント損失は49,937千円(前年同四半期は41,321千円の損失)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ162,534千円増加し、4,519,988千円となりました。これは主に、現金及び預金が185,522千円減少する一方で、印刷設備、製本設備の購入などにより有形固定資産が241,726千円増加したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ104,114千円増加し、773,915千円となりました。これは主に、固定資産の購入などにより未払金が156,618千円増加したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ58,419千円増加し、3,746,073千円となりました。これは主に、剰余金の配当として133,967千円計上した一方で、四半期純利益を180,629千円計上したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ185,522千円減少し、1,120,501千円となりました。なお、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果獲得した資金は、216,612千円（前年同四半期は295,976千円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期純利益284,762千円、減価償却費122,848千円を計上した一方、法人税等の支払額159,752千円を計上したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は、268,087千円（前年同四半期は236,362千円の使用）となりました。これは主に、印刷、製本関連の機械装置など有形固定資産の取得182,383千円、新サービスであるギフトネットコム関連の開発など無形固定資産の取得77,595千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は、134,046千円（前年同四半期は130,467千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払133,209千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は51,116千円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,800,000
計	16,800,000

(注) 平成26年10月1日開催の取締役会決議により、平成26年11月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は50,400,000株増加し、67,200,000株となっております。

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年10月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年12月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,366,000	17,464,000	東京証券取引所 マザーズ	単元株式数は100株であります。
計	4,366,000	17,464,000		

(注) 平成26年10月1日開催の取締役会決議により、平成26年11月1日付で普通株式1株を4株に株式分割いたしました。これにより株式数は13,098,000株増加し、発行済株式総数は17,464,000株となっております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年8月1日～ 平成26年10月31日		4,366,000		490,300		606,585

(注) 平成26年11月1日をもって普通株式1株を4株に株式分割し、これに伴い発行済株式総数が13,098,000株増加しております。

(6) 【大株主の状況】

平成26年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
福田 幸雄	広島県広島市西区	1,409,000	32.27
アスカネット従業員持株会	広島県広島市安佐南区祇園3丁目28-14	192,500	4.41
株式会社アスカネット	広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号	179,527	4.11
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	122,800	2.81
株式会社広島銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	広島県広島市中区紙屋町1丁目3-8 (東京都中央区晴海1丁目8-12晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	95,000	2.18
木原 伸二	広島県広島市南区	81,000	1.86
功野 顕也	広島県広島市中区	74,400	1.70
福田 俊也	広島県広島市西区	48,000	1.10
松尾 雄司	広島県世羅郡	43,000	0.98
大澤 英紀	愛知県瀬戸市	41,600	0.95
計		2,286,827	52.38

(注) 平成26年10月1日の取締役会決議により、平成26年11月1日付で普通株式1株を4株に分割しております。なお、上記は株式分割前の株式数を記載しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 179,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,183,200	41,832	
単元未満株式	普通株式 3,300		
発行済株式総数	4,366,000		
総株主の議決権		41,832	

(注) 平成26年10月1日の取締役会決議により、平成26年11月1日付で普通株式1株を4株に分割しております。なお、上記は株式分割前の株式数を記載しております。



## 【自己株式等】

平成26年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アスカネット	広島県広島市安佐南区祇 園3丁目28番14号	179,500		179,500	4.11
計		179,500		179,500	4.11

(注)平成26年10月1日の取締役会決議により、平成26年11月1日付で普通株式1株を4株に分割しております。なお、上記は株式分割前の株式数を記載しております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成26年8月1日から平成26年10月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年5月1日から平成26年10月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

### 3 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】  
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当第2四半期会計期間 (平成26年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,911,024	1,725,501
受取手形及び売掛金	552,595	562,101
商品及び製品	82,350	107,800
仕掛品	17,035	15,236
原材料及び貯蔵品	42,294	41,740
その他	90,495	104,550
貸倒引当金	5,329	5,206
流動資産合計	2,690,466	2,551,723
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	482,394	472,544
土地	432,702	432,702
その他（純額）	343,180	594,756
有形固定資産合計	1,258,277	1,500,003
無形固定資産	218,496	268,383
投資その他の資産	190,213	199,878
固定資産合計	1,666,987	1,968,264
資産合計	4,357,454	4,519,988
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	104,686	109,830
未払法人税等	165,800	109,300
賞与引当金	112,000	114,900
その他	276,271	429,186
流動負債合計	658,758	763,217
固定負債		
退職給付引当金	8,114	8,606
その他	2,928	2,091
固定負債合計	11,042	10,698
負債合計	669,800	773,915
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	2,704,647	2,751,309
自己株式	122,635	122,635
株主資本合計	3,678,896	3,725,558
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,101	11,503
評価・換算差額等合計	3,101	11,503
新株予約権	5,654	9,011
純資産合計	3,687,653	3,746,073
負債純資産合計	4,357,454	4,519,988

## (2) 【四半期損益計算書】

## 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)
売上高	2,212,518	2,325,450
売上原価	1,108,350	1,150,018
売上総利益	1,104,167	1,175,431
販売費及び一般管理費	826,783	893,681
営業利益	277,384	281,750
営業外収益		
受取利息	810	833
受取配当金	339	494
受取手数料	292	297
為替差益	192	615
災害見舞金		720
その他	492	443
営業外収益合計	2,126	3,404
営業外費用		
支払利息	14	
営業外費用合計	14	
経常利益	279,496	285,154
特別損失		
固定資産除却損	1,450	392
特別損失合計	1,450	392
税引前四半期純利益	278,045	284,762
法人税等	107,547	104,132
四半期純利益	170,498	180,629

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	278,045	284,762
減価償却費	135,333	122,848
株式報酬費用	2,353	3,356
貸倒引当金の増減額（は減少）	2,072	123
賞与引当金の増減額（は減少）	3,100	2,900
退職給付引当金の増減額（は減少）	1,804	492
受取利息及び受取配当金	1,149	1,327
支払利息	14	
為替差損益（は益）	2	1
固定資産除却損	1,450	392
売上債権の増減額（は増加）	32,407	10,586
たな卸資産の増減額（は増加）	2,077	23,097
仕入債務の増減額（は減少）	12,745	5,143
未払消費税等の増減額（は減少）	5,521	2,307
その他	1,678	6,761
小計	405,671	375,693
利息及び配当金の受取額	500	671
利息の支払額	3	
法人税等の支払額	110,191	159,752
営業活動によるキャッシュ・フロー	295,976	216,612
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	5,000	5,000
定期預金の払戻による収入	5,000	5,000
有形固定資産の取得による支出	171,784	182,383
無形固定資産の取得による支出	61,467	77,595
貸付けによる支出		6,000
貸付金の回収による収入	200	
その他	3,309	2,108
投資活動によるキャッシュ・フロー	236,362	268,087
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	8,723	
配当金の支払額	120,907	133,209
その他	836	836
財務活動によるキャッシュ・フロー	130,467	134,046
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	1
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	70,850	185,522
現金及び現金同等物の期首残高	944,258	1,306,024
現金及び現金同等物の四半期末残高	873,408	1,120,501

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理)

当第2四半期累計期間 (自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)
(税金費用の計算) 当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)		当第2四半期累計期間 (自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)
給与手当	205,987千円	給与手当	219,749千円
賞与引当金繰入額	48,686	賞与引当金繰入額	50,644

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)		当第2四半期累計期間 (自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)
現金及び預金	1,478,408千円	現金及び預金	1,725,501千円
預入期間が3か月を超える定期預金	605,000	預入期間が3か月を超える定期預金	605,000
現金及び現金同等物	873,408千円	現金及び現金同等物	1,120,501千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年7月26日 定時株主総会	普通株式	121,407	29.00	平成25年4月30日	平成25年7月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年7月25日 定時株主総会	普通株式	133,967	32.00	平成26年4月30日	平成26年7月28日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス事業	パーソナル パブリッシング サービス事業	エアリアルイ メージング事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,032,859	1,167,092	12,566	2,212,518		2,212,518
セグメント間の内部売上 高又は振替高						
計	1,032,859	1,167,092	12,566	2,212,518		2,212,518
セグメント利益又は損失 ( )	312,561	202,104	41,321	473,344	195,959	277,384

(注) 1 セグメント利益の調整額 195,959千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス事業	パーソナル パブリッシング サービス事業	エアリアルイ メージング事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,063,608	1,241,060	20,780	2,325,450		2,325,450
セグメント間の内部売上 高又は振替高						
計	1,063,608	1,241,060	20,780	2,325,450		2,325,450
セグメント利益又は損失 ( )	319,548	224,238	49,937	493,849	212,098	281,750

(注) 1 セグメント利益の調整額 212,098千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額(円)	10.18	10.79
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	170,498	180,629
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	170,498	180,629
普通株式の期中平均株式数(株)	16,745,892	16,745,892
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)	10.11	10.66
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)	117,986	202,885
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当社は平成26年11月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

当社は、平成26年10月1日開催の取締役会決議により、平成26年11月1日付で株式分割しております。当該株式分割の内容は、次のとおりであります。

1. 目的

当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、投資家の皆様がより投資しやすい環境を整えることで、投資家層のさらなる拡大と当社株式の流動性の向上を図ることを目的としております。

2. 株式分割の割合及び時期

平成26年11月1日付をもって平成26年10月31日の株主名簿に記録された株主の所有株式数を1株につき4株の割合をもって分割いたします。

3. 分割により増加する株式数 普通株式13,098,000株

4. 前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合における1株当たり情報の各数値は「1株当たり情報」に記載しております。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年12月10日

株式会社アスカネット

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柴 田 良 智

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 田 秀 敏

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスカネットの平成26年5月1日から平成27年4月30日までの第20期事業年度の第2四半期会計期間(平成26年8月1日から平成26年10月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年5月1日から平成26年10月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アスカネットの平成26年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。